

Svenska Cykeldagarna (スカンジナビア自転車展) 参観報告

スウェーデンのストックホルムとヨーテボリの上に位置する湖畔の地方都市ヨンショーピンにて新たな自転車単独の展示会が開催された。

【Svenska Cykeldagarna (Scandinavia' s Bicycle Trade Fair)】

主催： Växel/Velo Event

会場： Jönköping Elmia

会期： 2010年11月20日(土)、21日(日)

開催時間： 20日；9：00～17：00、 21日；10：00～15：00

使用ホール： ホールA(半分)、約4,000㎡

入場者数： 12/8 現在未公表

出展者数： 74社 ※出展リストより集計



Elmia 会場正面



ホールAの様子

1. 展示会概要

世界的な林業関係のメッセが開かれる展示会場 Elmia は、ヨンショーピン中央駅からバスで15分程の場所に位置し、大小4つのホールからなり、自転車展ではホールAの半分程を使用していた。今回、多くの来場者は自動車で来場していた。

主な出展ブランドとしては、地元ではサイクルヨーロッパがクレッセントとビアンキブランドのロードレーサー等のスポーツ車を多く揃え、アクセルグループではNISHIKIのスポーツ車を数多く展示していた。その他ではCUBE、フォーカス、GT、FUJI、メリダ、ジャイアント、ウィリエール、オルベア、サーベロ、BMC、スコット及びピナレロ等と、出展規模の大小はあるもののブランド数は充実していた。部品でもシマノをはじめ、スラム、BBB、マビック等が見られた。また、自転車小売店ブースでは物品の即売も行われ品定めをする来場者の熱気に包まれていた。



N I S H I K I



ク レ ッ セ ン ト



C U B E



サーベロ

2. シティ車は少数派

2007年ストックホルム展でよく見られた日本の軽快車に似たスタイルのメッシュの前カゴ付きU型フレーム等のシティ車は今回出展が極めて少なく、目立ったのはBILTEMAというホームセンターのブランド「ヨセミテ」位であった。フェップスフェルトは、トレッキング車やシティ車等、5台程の展示にとどめ、ストックホルム展ではスポーツ車から地元仕様のシティ車まで幅広く出展していたトレックは今回見られなかった。更にサイクルヨーロッパもモナークやクレッセントのシティ車はなく、アクセルグループもツツリ等のシティ車展示はなく、同展はスポーツ車とその関連部品及び付属品に注力していることが伺えた。また、近年、同国ではスポーツとしての自転車人気が高まっているためか、サイクリングなどに関するインフォメーションブースも多々見られた。

本年8月頃に本展開催予定の一報があった時、開催時期までのあまりの短さと、聞きなれない開催地のため、どの程度の出展者が集まるのか不透明であった。EUROBIKE会場でスウェーデンの自転車関連業者に同展について尋ねても、地の利も良くなく小規模なものとなるのではないかと述べていたが、2007年1月に調査したストックホルム二輪車展と比べても、自転車関連企業の出展規模、内容ともに本展の方が充実していた。



ヨセミテ (BILTEMA)



フェップスフェルトのシティ車



シマノ



スラム

3. 二つに分かれる商圈

かつてスウェーデンの自転車展示会は、ストックホルムとヨーテボリにて交代で毎年1月にオートバイと合同の二輪車展として開催されていた。本年、ヨーテボリ展は中止となり、来る2011年1月のストックホルム展はオートバイだけの展示会となってしまった。

同国自転車業界関係者によると、スウェーデンではストックホルムとヨーテボリでは商圈が異なるため、一年置きにそれぞれの地域に向けた展示会の場が必要であるそうである。今回はその点も踏まえ、両圏からアクセス可能な地としてヨンショーピンが選ばれた可能性がある。ヨーテボリからは高速バスまたは鉄道で2時間強、ストックホルムからの空路はあるものの便数は少なく、鉄道や高速バスだと4時間近くかかる。

今回の初開催は自転車展として一定の成功を収めたとも言えるが、来年の予定はまだ公表されておらず、今後も同地で開催を続けるのか今は未定であるが、付加価値の高い商品の需要が見込まれる北欧のスウェーデンで自転車展が必要とされているが故に、今回の新規開催に繋がったとも考えられ、今後も同国市場動向に注目したい。



この報告書は、競輪の補助金を受けて作成したものです。

